科目ナンバリング	G-LAS13 80020 SJ90						
授業科目名 <英訳>	健康危機管理セミナー Health Security Seminar			担当者所属 職名・氏名	医学研究科　教授　　今中　雄一		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	健康・医療系		使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 シラバス参照	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（医学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

近年、地震や風水害、新興感染症蔓延など様々な災害が頻繁かつ大規模に生じており、人々の健康を災害から守る研究の強化が世界的に求められている。特に我が国では、例年のように繰り返される風水害や今後発生が予想される南海トラフ大地震・首都直下型地震等への対応が喫緊の課題とされており、この「健康危機管理」へのニーズが一層高まりをみせている。
同時に、未曾有の災害に対して多様な学問領域を超えて協働し、新たな知見を切り拓くことができる研究人材、実践面では産官学民の多様なセクターと協働し、健康危機を乗り越えることができる高度人材の養成が急務となっている。
本講義では、医学研究科附属ヘルスセキュリティセンター（CHS）に所属し、各分野の第一線で活躍する教員の指導のもと、学生が健康危機管理というテーマについて、医療のみならず、防災、法律、経済などあらゆる学問領域からアプローチを行い、探求することを目的とする。
また、本講義は、健康危機管理に貢献しようとする意思を持つ学生が、多様なバックグラウンドを超えて集い、切磋琢磨し、今後の健康危機管理のあり方について考察を深める機会を大切にする。
そのため、今年度より全学共通科目とし、社会健康医学系専攻の大学院生のみならず、京都大学の博士、専門職学位、修士の各課程の大学院生にも広く受講機会を提供する。

※CHSは自然災害や新興感染症など様々な危機事案に対し、学内外の多様な研究機関と協働し、人々の健康を守る「ヘルスセキュリティ」の研究開発や人材育成等を担う機関。
　参考URL：https://www.chs.med.kyoto-u.ac.jp/index.html
※CHSが設置する「健康危機管理基盤プログラム」（修了証有り）のコア講義であり、同プログラム修了のためには必須科目となる。

[到達目標]

・健康危機管理における近年の研究成果を学ぶことで当該領域の全体像を把握する。
・健康危機管理事案について多角的な視点で捉える能力を養成する。
・将来の危機管理事案の発生時に学問領域や職種を越えて協働する能力を養成する。

[授業計画と内容]

【I】スタートアップ・ワークショップ（対面）
　日時：2026年5月11日（月）1-2限
　1) 全体オリエンテーション
　2) 講義
　3) 基礎避難生活支援スタートアップワークショップ

講義内容：
　1) 全体オリエンテーション：
　　各種形態の講義からなる当科目のあり方や全体像、レポート課題・発表会等について説明する。CHS及び健康危機管理基盤プログラムの設立経緯、求められる社会的機能・役割について解説を行う。

健康危機管理セミナー(2)へ続く↓↓↓

2) 基礎講義：
健避難所生活支援を踏まえた健康危機管理の基礎となる概念・考え方について解説する。当セミナーを通じて頻繁に用いる「健康危機管理」や「災害」「リスク」「オールハザード・アプローチ」といった言葉の定義について検討を行う。

3) 避難生活支援スタートアップワークショップ
避難生活支援の事例検討、シミュレーションなどのグループワーク／ワークショップを行う。
避難所の設営・運営に関する課題を命と健康を守る視点から検討し、その視点の重要性と複数人が知恵出し合うことの重要性を体験する。避難生活支援の理解の共通基盤をつくる。

【II】健康危機管理定例研究会（オンライン）
日時：原則、毎月第２水曜日 17:00〜17:30
概要：公衆衛生学・医学、防災学、法政策研究、社会科学、生命科学等の様々な領域で研究を行うCHS所属の教員等による研究活動の紹介及び意見交換を実施する
★下記(1)〜(12)は2025年度参考情報。順次更新されます。

(1)『健康危機管理基盤プログラム の新設について』
講師：CHSセンター長 健康危機管理システム学 教授 今中雄一
内容：今年度スタートした健康危機管理基盤プログラムについて紹介するとともに、今年度のCHSの取り組みについて協議を行う。

(2)『防災庁設置に向けた内閣府防災担当における普及啓発の充実の方向性』
講師：内閣府政策統括官（防災担当）付参事官　後藤隆昭
内容：防災庁設置に向けた内閣府の取組を紹介する。特に、今後の大規模災害に向けた発災前からの取組、文部科学省等と連携した防災教育の取組、避難所生活支援リーダーの育成等のあり方について、参加者と共に検討を行いたい。

(3)『多様な健康危機に対応する本部運営の標準手順』
講師：CHS健康危機管理多分野連携学教授 久保達彦
指定指定発言者：防災研究所社会防災研究部門　教授　牧紀男
内容：近年の健康危機対応の成否は本部指揮にかかっている。いかにその練度を蓄積するかが重要であるが、日本ではハザード別に体系が定められており、練度の蓄積が難しい。ハザード管理からリソース管理への概念の転換について検討を行う。

(4)『文化心理学から見た感染対策とリスク管理の文化差』
講師：人と社会の未来研究院　教授　内田由紀子
指定発言者：人間健康科学系専攻地域健康創造看護学 准教授　塩見美沙
内容：特定の文化内で醸成される常識的で当たり前の思考・行動様式のことを「文化的デフォルト」という。健康危機などのリスク下において、特に文化的デフォルトが表面化しやすい。新型コロナへの米国の対処行動と東アジア諸国の対処行動の違いについて、文化心理学の知見から解釈を行う。

(5)『大規模災害時における1.5次避難所の運営課題について』
講師：防災研究所附属巨大災害研究センター教授 畑山満則
指定発言者：CHSセンター長 健康危機管理システム学 教授 今中雄一

健康危機管理セミナー(3)へ続く↓↓↓

内容：能登半島沖地震の際に、高齢者などの要配慮者が２次避難所に移る
までの一時的な受け入れ先として1.5次避難所が注目されたが、運営主体の
明確化、入所者情報の管理など課題があった。ICTや情報管理の側面から
これから課題について考察を行う。

(6)『持続可能な社会保障に向けて～医療・介護分野の主な課題～』
講師：経済研究所先端政策分析研究センター特定准教授 中対剛
指定発言者：CHS特任教授（前厚生労働省医務技監）　福島　靖正
内容：国家財政について実務者として関与してきた立場から、
持続可能な社会保障のあり方について考察を行う。財政の持続可能性、
制度の支え手（勤労者）の減少、制度の担い手（医療・介護提供者）の
減少をテーマに議論したい

(7)　1)『CHSの現状報告』
2)『BCP研究・サージキャパシティ研究の紹介』
講師：CHSセンター長 健康危機管理システム学教授 今中雄一
内容：CHSのビジョンの共有及びこれまでの研究活動についての概要説明を
行う。また、災害拠点病院の地震災害時のサージキャパシティの推定から
導かれる病院BCPの課題について研究を紹介する。

(8)『医療施設・機器の耐震性評価と被害予測』
講師：医学部付属病院 初期診療・救急医学教授 大鶴繁
指定発言者：防災研究所社会防災研究部門　教授　牧　紀男
内容：医療のキャパシティを支える医療施設及び医療機器について、
災害耐性・安全性について、京都大学防災研究所と医学部附属病院が
連携して研究を実施した。その内容紹介と災害拠点病院のBCPのあり方に
ついて検討を行いたい。

(9)『PHRで大規模災害時の健康医療支援に「備え、支える」試み』
講師：CHS健康危機管理実装学　教授　石見　拓
指定発言者：防災研究所 災害情報システム研究領域教授 畑山満則
内容：PHR（Personal Health Record）は、個人が主体的に健康情報を
管理・共有できる仕組みである。PHRは個人がデータを管理し、
サービス事業者等と共有する新しいモデルであり、このモデルを
災害現場で利用する試みが始まっている。能登半島沖地震を参考に
今後の方向性について考察を行う。

(10)『次なるパンデミックにどう備えるか－新型コロナ対応の経験を踏まえて－
講師：CHS特任教授（前厚生労働省医務技監）　福島靖正
指定発言者：医学部附属病院 医療安全管理部教授　松村由美
内容：新型コロナ対応においては、我が国の健康危機管理に関する
脆弱性が顕になった。平時における、法令や計画・ガイドラインの
整備、人材育成の
必要性や健康危機発生時における、情報把握と分析の仕組みづくりに
ついて、次なるパンデミックに備え、必要な論点を検討する。

(11)『パンデミック時の疫学情報の在り方について考える』
講師：医学部附属病院感染制御部教授　長尾　美紀
指定発言者：社会健康医学系専攻　健康情報学　教授　中山 健夫
内容：パンデミック発生時には、感染状況把握や根拠に基づく施策立案、
市民への情報提供など、あらゆる面において疫学情報の共有が
重要となる。新型コロナ対応で発生した、疫学情報の一元化、行政と
研究機関での情報共有などの課題について考察する。

健康危機管理セミナー(4)へ続く↓↓↓

健康危機管理セミナー(4)

(12)『厚生労働省における感染症危機管理』
講師：厚生労働省医政局研究開発政策課再生医療等研究推進室長 杉原淳
指定発言者：医学部附属病院感染制御部　教授　長尾　美紀
内容：感染危機発生時に、行政で実施する調査、アカデミアが実施する調査の質的な違いとその協働のあり方について検討を行うとともに、行政の立場からアカデミア（CHS）に求めることについて提言する。

【III】 夏期集中セミナー（対面）：積極的な参加を推奨
日時： 2026年9月11日(金)1-4限 9月12日～13日(土)1-5限 使用言語【英語】

概要：Johns Hopkins大学よりGilbert Burnham教授(Center for Humanitarian Healthの創始者でであり人道支援の医療・公衆医衛生を世界で展開)ら講師陣を招聘し、国際人道危機や健康危機管理に関する集中セミナーを実施する。

講義内容：
Humanitarian Health Workshop

This workshop offers participants a unique opportunity to experience a part of the HELP (Health Emergencies in Large Populations) course, developed and provided by Prof. Burnham for over 25 years. The HELP course has offered humanitarian workers intensive training in the public health principles of disaster preparedness and disaster management.

＜ Day0＞
・Viewing of two videos (MOOCs) & a graded quiz before the course starts
＜Day 1, Friday, September11＞
・Disaster definitions
・Disaster Planning/Disaster Risk reduction
・Relationship-Building in Disaster Contexts
＜Day 2, saturday, September 12＞
・Disease Management in Emergencies
・Urban Health Services
・Earthquake Simulation
・Presentation ＆Discussion
＜Day 3, sunday, September 13＞
・Rebuilding health services after disasters
・After Action Review
・Presentation ＆Discussion for Future Activities

【IV】 発表会・審査（対面）
日時：2027年2月13日（土）1-2限★曜日注意
内容：本講義の総括として、参加者の課題報告の発表及び審査を実施する。
※経験や関心に基づき課題報告書を作成・提出し発表する。
※研究テーマは、担当教員と十分に相談の上、計画すること。
当講義の内容について更に知見を深めるため、健康危機管理基盤プログラムが提供する他の講義（「感染症数理モデル入門」「健康危機管理の制度政策と実践」「公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション」「レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言」「健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ」「公共政策と健康危機管理」「災害時の避難生活支援」「災害時の保健医療福祉における情報管理・活用」）の受講を推奨する。

健康危機管理セミナー(5)へ続く↓↓↓

健康危機管理セミナー(5)

[履修要件]

・社会健康医学系専攻の大学院生のみならず、京都大学の博士、専門職学位、修士の各課程の大学院生も受講可能。多様なバックグランドを持った学生を歓迎。
・健康危機管理基盤プログラム履修者は必修
・上記ⅠおよびⅤの参加は必須。Ⅱ～Ⅳも含めて全15コマ以上の参加を標準とする（②健康危機管理定例研究会１回は0.5コマ相当）

[成績評価の方法・観点]

・主体的・積極的な参加を評価(60%)
・期末に自身で作成したレポートの提出と発表会があり、その内容を評価(40%)
・特別セミナーフル参加の場合は相応の評価をします【素点(100点満点)評価】

[教科書]

ヘルスセキュリティセンター関連教員共同制作 『健康危機への備えと対応： パンデミックと能登半島地震を踏まえた社会とシステムのあり方. 医学のあゆみ.特集号第293巻1号（2025年4月5日号）』

（医歯薬出版）

その他、授業中に指示する。

[参考書等]

（参考書）
・西浦 博 『感染症疫学のためのデータ分析入門』（金芳堂 2021）
・石見拓（監修）『カンタン！救急蘇生 改訂第３版 WEB動画でわかる胸骨圧迫と ＡＥＤ』（学研メディカル秀潤社 2022）
・牧紀男、山本博之(編著) 『国際協力と防災：つくり・よりそう・きたえる（災害対応の地域研究3）』（京都大学学術出版会 2015）
・近藤尚己(編著) 『実践 SDH診療 できることから始める健康の社会的決定要因への取り組み』（中外医学社2023）
・中山健夫 、 藤本修平(編著) 『実践シェアード・ディシジョンメイキング 改題改訂第２版』（ 日本医事新報社2024）
・内田由紀子, 田中 康寛, デアウメイダ・イーゴル, 黄 冠儒 (担当:共著) 『同調から個をひらく社会へ
：文化比較から紐解く日本の働く幸せ』（コクヨ x 京都大学 共同研究レポート 2024）
・今中 雄一(編著) 『認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック 地域共生社会に向けた15の視点』（学芸出版社 2023）
・CHS教員で共同分担著『健康危機への備えと対応 ―パンデミックと能登半島地震を踏まえた社会とシステムのあり方』（医学のあゆみ 2025）
その他、講義などで適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習、復習にとどまらず、自律的学習が望まれる。
参考書の該当部分やLMSにアップされた資料を読み、 関心のもてる事項は各自理解を深めること（予習・復習とも）。

[その他（オフィスアワー等）]

問い合わせ等: CHS事務局 chs-office@umin.ac.jp
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

健康危機管理セミナー(6)へ続く↓↓↓

健康危機管理セミナー(6)

[主要授業科目（学部・学科名）]